

製品名: ADP-GK ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06643**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	ADPGK
別名	ADPGK; PSEC0260; ADP-dependent glucokinase; ADP-GK; ADPGK; RbBP-35
遺伝子 ID	83440.0
SwissProt ID	Q9BRR6
免疫原	抗血清はヒト ADPGK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 241-290

背景

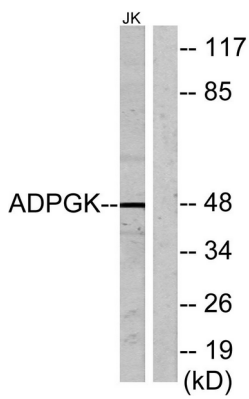
ADPGK (EC 2.7.1.147) は、ADP 依存性のグルコースからグルコース 6-リン酸へのリン酸化を触媒し、おそらく虚血状態において解糖系で役割を果たす可能性がある (Ronimus and Morgan, 2004 [PubMed 14975750])。[OMIM 提供、2008 年 3 月],触媒活性:ADP +

D-グルコース = AMP + D-グルコース 6-リン酸。補因子:サブユニットあたり 1 個のマグネシウム イオンを結合します。機能:ADP をリン酸供与体として使用して、D-グルコースから D-グルコース 6-リン酸へのリン酸化を触媒します。GDP および CDP は ADP と置換できますが、効率は低下します。経路:炭水化物の分解;解糖系。類似性:ADP 依存性グルコキナーゼファミリーに属する。類似性:1 つの ADPK (ADP 依存性キナーゼ) ドメインを含む。サブユニット:モノマー。、

研究分野

-

画像データ



ADPGK 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。